



富士山お山開きウォーク

村山浅間神社と自然休養林

2026.07.10 9km ゆったり 5km

コース

往路(バス) 富士宮駅南口 == 浅間大社(安全祈願祭・WC) == 富士山さくらの園(体操)
8:00 8:15~50 9:20~40

ウォーク さくらの園(スタート)・・・村山浅間神社(護摩焚き見学・昼食・WC) == バス ==
9:40 10:40~12:30
高鉢駐車場(WC)・・・自然休養林・・・PICA表富士(ゴール・WC)
13:00~15 15:00~20

復路(バス) PICA表富士 == 富士宮駅南口
15:20 16:00

* 足に不安のある方 : 高鉢駐車場からバスで五合目に行き散策(14:20 まで)、その後バスでPICA表富士に移動。

参加者の皆様へ

- ・ 無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・ 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・ スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・ 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・ 一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・ 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

コースの概要

浅間大社で安全祈願祭に参加した後、バスで富士山さくらの園へ移動し、体操をしてからウォークをスタートします。村山浅間神社まで歩き、そこで昼食となります。村山浅間神社の手前で古道(石畳)を少し歩きますが、滑りやすい箇所があります。足に不安のある方は一般道を歩いてください。昼食時間中には、開山祭や護摩焚きの見学を行います。昼食後はバスで高鉢駐車場へ移動し、トイレ休憩を済ませてから自然休養林ウォークを開始します。コバイケイソウの群生や苔むした倒木を眺めながら遊歩道を進みます。全体的には歩きやすい下り道(標高差約500m)ですが、一部に滑りやすい場所や木の根が出ている箇所がありますので、足元には十分ご注意ください。ストックをお持ちの方は使いましょう。また、道が分かりづらい場所もあるため、あまり間隔をあげずに歩いてください。迷いやすい場所には樹木にピンクや黄色のリボンが巻いてあります。ゴールはPICA表富士です。ここでトイレ休憩をした後、富士宮駅へ向かいます。トイレは3か所ありますが、数が少なく離れた場所にあるため、役員がご案内します。

足に不安のある方は高鉢駐車場からバスで五合目に移動して、1時間ほど散策していただきます。その後はバスでPICA表富士に向かい、普通コースメンバーと合流します。

村山浅間神社

国指定史跡「富士山」・世界遺産「富士山」の構成資産のひとつ。江戸時代の村山は、京都の聖護院(しょうごいん)を本寺とする修験道の拠点であり、その中心は「富士山興法寺(こうほうじ)」であった。興法寺境内には、大日堂、浅間神社、大棟梁権現社などがあった。興法寺は明治初年の神仏分離令を受けて廃され、大日堂と浅間神社に分離された。現在、大日堂には、大日如来像や廃仏毀釈の際に富士山中より下ろされたとされる仏像が伝わっている。

「護摩焚き」ってなに？

護摩(ごま)とは、「焚く」「焼く」を意味するサンスクリット語のホーマ(homa)を音訳して書き写した語である。仏教には釈尊入滅から約500年後に発生した大乘仏教の成立の過程でバラモン教から取り入れられた、と考えられている。そのため、護摩は密教(大乘仏教の一派)にのみ存在する修法であり、釈尊の直説に近いとされる上座部仏教には存在しない。おもに天台宗、真言宗で行われる。なお、専ら護摩を修するための堂を「護摩堂」(ごまどう)と称する。護摩の炉に細長く切った薪木を入れて燃やし、炉中に種々の供物を投げ入れ(護摩焚き)、火の神が煙とともに供物を天上に運び、天の恩寵にあずかろうとする素朴な信仰から生まれたものである。火の中を清浄の場として仏を観想する。

次回申込(朝集合場所で)

蓼科湖と横谷峡

滝めぐりウォーク

- ☆期 日 8月 23日(日)
- ☆集 合 富士宮駅南口 7:30
- ☆参加費 6,500円
おにぎり弁当希望者 +300円
- ☆切 8月 17日(月)

